

氏名	高 島 稔
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 805 号
学位授与の日付	昭和 51 年 12 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	前房内遊出細胞の細胞学的研究 第 1 報：電子顕微鏡的観察方法 第 2 報：各種疾患にみられた前房内遊出細胞の電子顕微鏡的観察 第 3 報：各種疾患にみられる前房内遊出好中球の X 線微小分析 第 4 報：実験的炎症眼にみられた前房内遊出細胞の電子顕微鏡的観察
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 妹尾左知丸 教授 大塚長康

学位論文内容の要旨

今日でも、原因不明の眼内炎やブドウ膜炎は非常に多い。著者はこの問題の解明の一助として、前房内遊出細胞を単に炎症の表現型として捉らえるのみでなく、その細胞を詳細に検討する事により、炎症の原因や性質に関して重要な情報が得られるのではないかと考え、研究を行った。先ず、細胞の微細構造を観察するため、極く微量な前房水中の細胞の簡単な電子顕微鏡的観察方法を考案した。そして、臨床上の各種疾患に応用したところ、同種の細胞でも疾患によりその微細構造に差がみられる事を発見した。即ち疾患の性質が遊出細胞に反映している事が判明した。そこで実験的眼内炎を惹起させ、前房内遊出細胞とその原因疾患との関連性を追求した。その結果、臨床的にみられる前房内遊出細胞の細胞学的検討は、疾患の性質について重要な示唆を与えてくれる事が判明した。また、最近 Behçet 病患者の末梢血好中球の X 線微小分析により、銅、クロール等の元素を重視する画期的な説が述べられた。そこで著者は、Behçet 病を中心とした各種疾患の前房内遊出好中球について同様に X 線微小分析を行った。

その結果、Behçet 病と特定の元素との因果関係を推定することは出来なかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は微量の細胞を固定する方法を考案して眼前房内遊出細胞を電顕的に観察し、疾患によってその種類や微細構造に差異のあることを明らかにすると共に、前房内遊出好中球について金属元素の X 線微小分析を行ったものであるが、種々な眼の炎症性疾患の性状と経過を知る上に価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。